

Kawara (Japanese Tile) Roofing かわらぶき

瓦1400年の歴史、現代につづく技の妙技

「粘土瓦」は、1400年の歴史のある屋根材で、“耐久性”“耐熱性”“強度”に優れ、環境にとってもやさしい屋根材です。住宅を風雨などから守る大切な屋根。その屋根の瓦を葺く技術「かわらぶき」は、普段はあまり見られる機会がありません。身近で見られる匠の技を、お見逃しなくご覧ください。

競技概要

方形架台の4面を使用する納まりで、軒瓦は2面を万十軒瓦、その他の2面は万十軒瓦と一文字軒瓦で納め、一文字軒瓦は継る（すぎる-本屋根の軒先からさらに突き出ている片流の屋根）納めとしています。また、4本の隅棟（すみむね-軒先に向かって下に傾斜する棟）は、頂点で熨斗瓦、素丸瓦で留（とめ-二つの材をある角度で接合するとき、角度を折半して継ぎ目を密着させる手法）納めとしています。隅棟の短い1本は、いかに工夫して華麗に納めるかも問われます。

前回大会金メダリストからメッセージ！

〔所属：（株）土岐瓦店〕

土岐 信幸さん

若い職人さんを育てていかないと後に繋がっていかないと
思うので、色々教えて
いきたいです！



第32回競技課題

Point

袖瓦と一文字軒瓦の合端（瓦と瓦が接する面を“たがね”を使用し、隙間なく合わせる作業）の美しさ、4本の隅棟頂点の合端納めの美しさが見どころのポイントになるでしょう。

